

県立水戸第二高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>○ 豊かな人間性、積極的な実践力、合理的で公正な判断のできる叡智、たくましく生きるための健康や体力を備え、平和な国家・社会の進展に貢献できる品位と教養ある人材の育成を目指す学校</p> <p>1 生徒ひとりひとりの学力を伸ばし、進路希望実現を図る学校</p> <p>2 特別活動や各種部活動が盛んな活力ある学校</p> <p>3 生徒・保護者・地域から信頼される魅力ある学校</p> <p>4 社会規範を身に付け、広く社会に貢献できる良識ある指導者を育成する学校</p>			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<p>1 家庭での学習時間が十分に確保できていない生徒もいる。自学自習の定着を図るために、考査前の自学時間の設定や集中学習会を実施した。課題の提出等、きめ細かな指導や教科指導を行い、自学する環境を整えることが必要である。『進路ノート』等を用いて、計画性を持った学習活動に留意しながら主体的に取り組む姿勢を身につけさせることが必要である。</p> <p>2 平成29年度卒業生の国公立大学合格者は107名であった。全国規模での国公立大学の受験に特徴がある。東北大学、お茶の水女子大学、筑波大学や早稲田大学、上智大学などの難関大学へも数多く合格することができた。センター試験や二次試験等に対応できる応用力・記述力をさらに養う取り組みが必要である。受験環境の変化を的確に捉え、本校生徒に最もふさわしい教育課程となるよう絶えず見直す必要がある。</p> <p>3 平成29年度のスマホ家庭のルールづくり運動において、家庭のルールを守っている1年生の割合が54%であった(2年生91%)。また、ネット上のみのつきあいの人と情報のやりとりをしたことがある生徒の割合が25%であった。ルールを守る意識の低下がうかがえる。ルールを守ることやルールの見直しを家庭で話し合う必要がある。生命の危険にさらされる事件や自撮り被害の急増が問題となっている。ネットで知り合った人を信用しない、直接会わないなど指導していく。</p> <p>4 80%を超える生徒が部活動に参加している。平成29年度は2つの運動部が全国大会に出場し、県高校総合体育大会女子の部で県立高校最上位の総合第3位となった。文化部は6つの部が全国大会に参加した。部活動の充実とともに、学習時間を確保させる必要性がある。</p>	<p>1 生徒の進路希望の実現を図る教科指導の充実とキャリア教育の構築</p>	<p>① 授業法の校内研修や公開授業参観週間を充実させ、教科指導力の向上を図る。</p> <p>② 進路講演会、キャリアガイダンス、大学模擬授業などの進路行事を通して、学習意欲や進路に対する意識を高める。</p> <p>③ 個別面談を通して生徒理解を深めるとともに、早期における志望大学の決定を促す。</p> <p>④ 国公立大学現役合格120名以上、難関大学への合格者数増加を達成するため、個に応じたきめ細かな学習指導や進路指導を行う。</p>	B	B
	<p>2 自主的・能動的な学習習慣の確立</p>	<p>⑤ シラバスを活用した授業中心の学習形態と自学自習の姿勢を指導する。</p> <p>⑥ 「進路ノート」を活用し、計画的な学習の在り方や学習時間の確保を指導する。</p> <p>⑦ 学習室や図書室の利用を促進する。</p>	A	A
	<p>3 理数教育の推進～Ⅲ期目指定校としてのSSH事業の充実</p>	<p>⑧ SSH講演会、自然科学体験学習、学校設定科目を通して科学的思考力を育成する。</p> <p>⑨ 各種発表会や海外セミナーを通して、プレゼンテーション力や英語活用力の向上を図る。</p> <p>⑩ 地域の科学教育の拠点校としての役割を担う。</p>	B	B
	<p>4 国際理解教育の推進</p>	<p>⑪ 国際理解講演会等を通して、国際情勢や世界で働く意義の理解を図る。</p> <p>⑫ 日本の文化や歴史への理解や体験を通して、多様な文化を受容できる力を育成する。</p> <p>⑬ 積極的に自分の意見を発表できるプレゼンテーション力や英語力を育成する。</p>	A	A
	<p>5 特別活動や部活動への積極的な参加</p>	<p>⑭ 生徒会活動や部活動などへの積極的な参加を促し、活力ある学校づくりを推進する。</p> <p>⑮ 各種学校行事、委員会活動を通して、豊かな人間性やリーダーシップを培う。</p>	B	B
	<p>6 規範意識の高揚と自律的で責任ある生活習慣の確立</p>	<p>⑯ 服装指導や生活指導を通して、水戸二高生として自覚と責任をもった行動ができる生徒を育成する。</p>	B	B
	<p>7 施設・設備等の教育環境の充実</p>	<p>⑰ 校舎内外の清掃と教室の整理・整頓の徹底を図り、快適な学習環境を整える。</p>	B	B
	<p>8 積極的な広報活動の実施</p>	<p>⑱ 本校の教育目標や教育活動について、保護者および地域の方々や中学校への積極的な広報に努める。</p> <p>⑲ 常に最新の情報を掲載するなどHPの充実と、積極的な情報発信に努める。</p>	B	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	各教科の目標・シラバス等に基づいた密度の濃い授業を展開する。(①⑤)	・年度初めに、生徒が活用し易いシラバスを作成するとともに、毎時間、綿密な授業計画を作成し、それに基づき、生徒の能力を最大限に引き出す授業を行う。	B	新入試に対応するため、生徒の主体的な学習につながる授業へのさらなる改善が求められる
		・常に授業内容の点検を行い、より一層の授業改善に努める。	B	
		・より効果的な観点別学習状況の評価法を研究、推進する。	B	
国語	1 基礎学力の定着と応用力の伸長(④)	・到達目標の達成度を各単元毎に確認し、事後の指導の改善を図る。 定期的な小テストの実施(古典基礎の定着と応用発展・現代文の読解力・語彙力養成)	A	・生徒の実態に合わせて授業、課題を見直し、内容を充実させる。 ・低学年からの小論文の継続的な指導を図る ・新しい大学入試制度を見据えた指導計画の充実、実践
	2 表現への興味・関心及び表現力の向上(⑦⑬)	・小論文・読書指導の推進 図書部・学年と連携しての小論文講演会の実施。	B	
	3 自学自習力の養成(⑤)	・適切な自学用の教材の利用 現代文・古文・漢文の副教材やワークブックを使った、家庭学習の習慣化の指導。 教科書で学習した作者の他作品の紹介をし、読書活動につなげる。	B	
教 科	1 授業内容の工夫・充実(①④⑤⑫) 2 カリキュラムの検討継続(④⑤) 3 視聴覚機材の有効利用(①⑦⑫)	・課題の発見と解決に向けたアクティブ・ラーニングを取り入れ、探究型授業の工夫を図る。 ・センター試験・私大記述に対応するため授業内容、副教材の精選や進度等の調整をする。 ・主権者教育推進のため、時事問題を取り入れた授業展開を図る。 ・指導に生かす評価の工夫改善に努める。	B	・2020年度から実施予定の「大学入学共通テスト」に対応するために入試情報を的確に把握し、授業実践に生かしていく。 ・課題の発見と解決に向けたアクティブラーニングをより一層推進する。
		・SSH指定校として、文系科目におけるきめ細かな指導の検討を継続させる。	B	
		・各分野における視聴覚教材の積極的活用と活用方法の検討を継続させる。	B	
数 学	1 基礎・基本の定着を図る。そのための有効な方策を実践・研究する。(⑤) 2 生徒の学力差や進路・個性に応じたきめ細かい指導法を工夫研究する。(④⑤⑥) 3 SSH事業を含む本校の実態を踏まえた教材の配置・選択をし、その指導法を実践・研究する。(④)	・(1年)教科書・問題集を活用し基礎計算力の充実を図るとともに、自主学習ノートを提出させ、家庭における学習習慣の確立を図る。また、確認テストを実施し基礎力の定着を図る。 ・(2年)問題集を活用し、家庭での学習習慣の定着を図る。全生徒に数学Ⅱ+Bを最後まで取り組む姿勢をもたせる。また、定期考査等を活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・(3年)問題演習の際、各項目の基本事項を確認し、テストを行うなどして基礎力の定着を図る。特に数学Ⅲ履修者には数学ⅠAⅡBの既習事項の問題集を活用し、基礎力の定着を図る。	A	基礎学力の定着を目指し、指導にあたることのできた。 生徒の負担を考え、課題を精選することが必要である。 また、2020年度入試を見据え、表現力の育成も行っていく必要があるので研究に努めたい。
		・(1年)確認テストや定期考査の結果を活用し、学力の強化を図る。また、提出させた自主学習ノートやプリント等を活用し、個別に指導助言を行う。 ・(2年)ノートやプリント等の提出を通して個別に指導助言を行う。また、各習熟度別に希望者課外を実施し、より高い学力への到達を目指す。 ・(3年)ノートやプリント等の提出を通して、個々の能力に合わせて個別に指導助言を行う。また、習熟度を考慮した平常課外を行い、個々の目標達成のための実践力を身に付けさせる。	A	
		・大学入試に対応できるよう各大学・大学入試センター等からの入試情報に基づき、指導方法及び教材の選択について教員間の連絡・検討を密に行う。	B	
理 科	1 自然科学への興味・関心を高めるとともに、科学的に探究する能力と態度を養成する。(⑤⑧) 2 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業を推進する。(⑧⑨⑩)	・自然の原理・法則の理解を深めたり、思考力・判断力・表現力を身に付けたりするために、創意工夫して実験・実習を行う。 ・身近な科学的現象を認識させることで、学習への動機付けを図るとともに、科学的思考力を育成する。 ・調べ学習やレポート提出の機会を通して、自発的に学習する習慣を涵養、定着させる。	A	・アクティブラーニングを含めた様々な授業形態について、生徒の学習の段階を踏まえながら、適宜取り入れていく。 ・SSHの各事業について、生徒が主体的に参加できるように企画の見直しを進める。 ・SSH事業について、さらなる教員間の理解を深め、教科・科目間の融合プログラムを研究する。
		・大学・研究機関との連携を強化・継続することにより、課題研究を円滑に進める。 ・研究方法や科学的思考力など必要な能力を身に付けさせ、研究者の基盤作りを図る。 ・SSHについて、教員間の共通した理解を図り、教科・科目間の融合プログラムの研究等を通して、実践的な活動を円滑に進める。 ・「小・中学校サイエンスサポート」を積極的に推進し、地域の教育活動と連携し、科学への夢を育むため教育支援を行う。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教 科	保 健	1 評価活動の工夫及び授業の改善を図る。(①⑤)	・評価テスト問題の内容を検討し、授業改善を含め、身に付けさせたい学力についての評価を充実させる。	B	B ・パワーポイントを使用しての授業が定着してきた。さらに、上手に視聴覚教材を活用し、より良い行動が選択できるように授業を実践する。グループでの課題学習も続けていく。
		2 「生きる力」を身に付けさせる授業を実践する。(①)	・グループでの課題学習をはじめ、実習を取り入れた授業(アルコールパッチテスト・心肺蘇生法)や視聴覚教材やメディアの活用により、より良い行動の選択ができるように授業を実践する。	A	
	体 育	1 評価活動の工夫及び授業の改善を図る。(①⑤)	・種目ごとの観点別評価活動の具体化と、授業改善を含め、学年の進行に合わせた、身に付けさせたい運動能力についての評価を充実させる。	A	B ・種目ごとの授業展開方法や観点別評価も教員間で共有し、学年に応じた指導や評価が出来ている。さらに安全面に配慮しながら、継続して指導していく。
		2 授業で敏速な行動を身に付けさせる。(⑫⑬)	・集団行動の実践を通して、日常生活においても敏速に行動できるようにする。 ・体育用具・設備の安全管理の徹底	B	
		3 体力・運動能力の向上及び生涯スポーツへとつながる授業を実践する。(⑭)	・種目の特性に触れ、個人及び集団の活動を通じた課題解決学習の実践により、体力・運動能力の向上を含め、生涯スポーツへとつながるようにする。	B	
	芸 術	1 個性豊かな人間性と情操の育成(①④)	・近隣の美術館やホールと連携して鑑賞指導の質を向上させ、課題解決学習の設定によって総合的に創造力や表現力を涵養する。	B	B 芸術三科目間のさらなる相互理解と協力の推進に努める。 芸術系大学の多様化する実技試験内容の考察、及び個々に応じた適切な指導の工夫改善
		2 基礎表現力の育成と教育環境の整備(①⑫⑬)	・芸術三科間の協力を推進し、生徒の実態に応じた丁寧な指導により、基礎表現力をつけ、また学びやすい教育環境となるよう整備に努める。	B	
		3 個人の能力・進路に応じた指導(③④)	・芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ、芸術系大学進学希望者の進路を実現させるための教育課程や年間計画を立案し、個の能力・適性に応じたきめ細やかな指導を行う。	B	
	外 国 語	1 外国語学習の意義を認識させ、英語学習に対する意欲を高める。(⑤⑨⑬)	・英語の基礎学力の定着と向上を図る。	A	A ・4技能の卒業時の目標を明確にし、科内で共有する。 ・学年間での授業内容・パフォーマンステスト・教材等の引き継ぎを継続的に行う。 ・「大学入学共通テスト」を見据えた指導のあり方を検討する。 ・外部試験の校内での実施方法について再検討する。
			・ALTとのTTやディベート活動を通して、英語を用いて情報を整理し、論理的思考に基づいたコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成する。	A	
			・個人の能力、希望進路に対応したきめ細かい受験指導をする。	B	
			・センター試験のリスニングへの対応の充実と英作文指導を継続的に行う。	B	
・英語表現やサイエンス・イングリッシュの授業を通して、英語による基礎的なプレゼンテーション能力を育成する。			A		
家 庭	1 社会の変化に対応した指導の充実(①)	・最新の情報を精選して教材として使用する。	B	B ・実物の提示だけでなく、教室でできる実験の回数を増やす。 ・ホームプロジェクトレポートについて、事前指導の時間数を増やし、生徒一人ひとりより充実した研究や実践活動ができるようにする。 ・スクールプロジェクトの指導を継続し、外部機関との連携がより多くの生徒にとってプラスになるように工夫する。	
		・衣食住の他、保育・福祉・消費生活など幅広い知識を身に付けさせる。	C		
	2 実験・実習、体験学習の工夫(①⑫⑬)	・限られた環境の中で、1回でも多くの実験・実習を取り入れ、体験を通して具体的に学習させる。	B		
		・被服製作作品、課題プリント等を期限までに提出させる。	B		
		・調理実習時の身支度を徹底させ、安全、衛生面に十分留意するよう指導をする。	B		
	3 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の推進(①⑫)	・ホームプロジェクトの意義を理解させ、実践させる。	B		
・家庭クラブ県連役員校として、また、全国大会発表校として、県内外の学校家庭クラブ関係の行事に積極的に参加させる。		A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務部	1 SSHの研究題目を踏まえた教育課程の編成(④⑤⑧)	<ul style="list-style-type: none"> SSHの研究成果を活かし研究題目を踏まえた教育課程を編成する。 教育課程の自己点検、自己評価を通して、水戸二高の将来像を見据えた、よりよい教育課程の研究に努める。 教育課程編成における各教科間の共通理解を図る。 「総合的な学習の時間」の円滑な運営と効果的な内容の選択をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試改革に対応し、本校の将来を見据えた特色ある教育課程を研究する。 校務支援システムを円滑に運営する。 校務が円滑に行われるよう、校内コンピュータ、ネットワークを把握し、適切に維持管理する。 個人情報等、情報の保護を徹底し、厳正に管理する。 授業改善のための積極的な研究、研修を促す。 HPを頻繁に更新し、外部に対し積極的に情報を提供する。またHP以外の情報提供手段を研究する
	2 各分掌間の円滑な連携と授業時間の確保(④⑭⑮)	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌の円滑な運営と連携を図る。 学校行事等の精選を行い、授業時間を確保する。 週ごとに授業交換を行い、自習時間のない時間割を編成する。 	A	
	3 校内研修の企画・運営(①)	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の研修を企画する。 授業の質的向上のための研修を推進する。 人権教育の研修を企画する。 	B	
	4 学校評価の研究(⑱)	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・生徒への授業アンケートを実施する。 	A	
	5 情報管理の徹底と安全性の研究と成績処理(⑰)	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援システムに円滑に移行できるよう研究する。 絶えず迅速で正確な成績処理を実施する。 	A	
	6 ハード・ネットワーク、視聴覚機器の管理(⑰)	<ul style="list-style-type: none"> 各教室、コンピュータ教室、職員室等のコンピュータの維持管理に努める。 消耗品の在庫の管理に努める。 ネットワーク上のトラブルに速やかに対応できるよう研究する。 視聴覚設備、放送室・体育館の放送設備の管理、運営に努める。 	A	
	7 外部への積極的な情報提供(⑱⑲)	<ul style="list-style-type: none"> 学校ビジョンの共通理解と広報活動を推進する。 ホームページの更新頻度を維持し、さらなる充実を図る。 	B	
生徒指導部	1 基本的生活習慣の確立(⑯)	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみを整え規則正しい生活ができるよう、毎朝のあいさつ運動や登校指導を通して「声かけ」を行う。 公共マナーの向上を目指し、マナーアップ運動・学期毎の全体指導・月初めの登校指導を行い、生徒一人ひとりの規範意識を高める。 スマホ家庭のルールづくり運動を行う。 生徒会と協力して、生徒の生活について考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会と協力して、基本的生活習慣が確立できるよう、生徒指導を続けていく。 生徒の生活行動は、常に変化していて、アンケート調査を実施し、生徒の実態の把握をする。 SNSトラブルが多くなってきており、被害状況に沿って、スマホ安全教室の内容を検討する。
	2 交通安全指導の推進(⑯)	<ul style="list-style-type: none"> 茨城県警や水戸警察署に協力を依頼し、自転車の安全運転指導や交通講話を実施する。 交通安全週間に合わせて生活委員会・生徒会役員で登校指導を行う。 自転車安全点検(2回)を行う。 	A	
	3 いじめ防止・早期発見(⑯)	<ul style="list-style-type: none"> 被害調査(3回)を行う。 いじめ予防授業を行う。 	A	
特別活動部	1 自主的活動の育成(⑭⑮)	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の生活の中で自己を見つめる姿勢が身に付くよう働きかけていく。 生徒会を中心に、学校行事・委員会活動・リーダー研修会(前後期2回)・ホームルーム活動・部活動等、積極的に取り組み、リーダーを育成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新企画「れんか祭」やリーダー研修会を通して育成したリーダーを中心に、2年ぶりのメイン行事「みやび祭」を成功に導くこと。
	2 奉仕の精神の涵養と環境に対する意識の高揚(⑮)	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア精神を養うため、校外のイベントなどにも積極的に参加する。 環境問題に継続して取り組み、節電・ペットボトル・キャップ回収等を行う。 	B	
進路指導部	1 進路に対する意欲を高め、学習時間の確保と自学自習力の育成指導 自学自習の週平均時間数 [3年]30時間以上 [1,2年]20時間以上 (②⑤⑥⑦)	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会をはじめ、キャリアガイダンス・大学見学会・大学模擬授業など、これまで実施してきた行事の継続と内容の深化を図る。 全学講座(年間15日)や課外の計画・実施。特に、長期休業中の課外については生徒の要望を踏まえて、柔軟且つ弾力的に運用する。 学年別に作成した『進路ノート』を効果的に活用し、自学自習の習慣を定着させる。また、幅の広い情報提供を行い、生徒の進路希望の視野を広げる。 自学自習の習慣化を図るために、集中学習会を1学年と2学年で実施する。特に2学年においては、早めの受験体制への切り替えを図っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自律的自主的な学習活動の結果としての学習時間の蓄積を目指す。 学習することの意義、目的意識の明確化を図る。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導部	2 進路目標の設定および学習意欲の喚起による学力向上(①③⑤) 模擬試験での成績 [3年]進研模試5教科総合 学年平均偏差値 55以上 [2年]進研模試3教科総合 学年平均偏差値55以上 [1年]進研模試3教科総合 学年平均偏差値57以上	<ul style="list-style-type: none"> 授業中心の学習習慣の定着を確実なものにする。2年次までに英語・数学・国語の3教科の基礎力を養い、3年次で地歴公民や理科の学習を中心に据えるよう、3年間を見通した学習の在り方を指導する。 生徒の適性や興味関心を踏まえた上で、適切な文理選択ができるように情報を提供するなど学年に協力する(特に1学年)。また、学年との協力を密にするために学年会などに同席する機会を増やす。 進路資料・進路のしおり・個人面接用資料の作成と頒布、活用を推進。 卒業生から聞く学習法(OGインパルス)を2年生対象に開催するが、可能な限り1年生にも機会を拡大する。 保護者会などを通して保護者との情報の共有化を図り、生活・学習面のバックアップ体制を築く。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 5教科全体の成績の底上げを図る。 生徒の進路希望実現のためには、センター試験を突破できるような授業を展開し続ける必要がある。 2021年度導入の共通テストに向けての情報収集と対策の強化。 気質の変化が予想される新入生への対応。
	3 生徒の第1志望実現のための援助促進、難関私立大学を含む国公立大120名以上合格の達成(③④)	<ul style="list-style-type: none"> 校外模擬試験の分析会や教員対象の進路研修会を実施する。 生徒の個に応じた、推薦入試活用の助言を行う。 大学入試センター試験出願説明会および国公立大学出願先検討会の計画・実施。 各学年の小論文指導担当と連携し小論文指導説明会開催と小論文模試への援助をする。 新学習指導要領の実施、大学の学部学科改編など、本校を取り巻く環境の変化に対応し、最良の教育課程を絶えず模索する。 共通テストに向けて、万全の準備態勢を整える。 	B	
図書部	1 「読書センター」としての機能の充実を図る。(②⑦)	<ul style="list-style-type: none"> 前期・後期1回ずつ校内読書週間を実施し、LHR読書会を開く。 LHRを利用した読書活動を、年1回実施する。 図書等の資料の充実を努める。 図書委員会読書会を年2回程度企画、実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内読書週間、LHR読書会(ビブリオバトル)等を通して、さらなる読書量の増加を図る。 図書委員会の活動を従来通り継続する。 マニュアル化した「道徳プログラム」(STARTプログラム)を実施し、次年度以降にも従来通り継続できるよう問題点を抽出する。 水戸二高HPの図書館の専用ページを充実させる。
	2 「学習・情報センター」として資料の提供および利用指導を行う。(②⑦⑬⑮)	<ul style="list-style-type: none"> 3号館1階学習室の学習情報センターとしての活用促進を図る。 図書館を利用した「道徳」(STARTプログラム)を補助する。 「道徳」(STARTプログラム)のマニュアル化を完成する。 図書等の資料の充実を努める。 使用全教科書を閲覧できるようにしておく。 職員からの図書購入希望に随時対応する。 図書館内に教科学習資料の展示を適宜行う。 LHRのための視聴覚資料の充実を図る。 図書館を利用する授業に対し、資料利用のオリエンテーションを行う。 新任者、新入生に対し、図書館利用のオリエンテーションを行う。 小論文の指導における資料提供に積極的に協力する。 	A	
	3 生徒図書委員会の充実を図る。(⑭⑮)	<ul style="list-style-type: none"> 毎週定例の図書委員会を開く。 生徒図書委員の校外研修を行う。 中央・水戸地区の研修会に積極的に参加する。 図書委員による特集を組んだ本の展示や読書会を定期的に行う。 生徒図書委員による図書の選定、店頭選書を行う。 「図書館便り」「図書館報」の発行を行う。 	A	
保健厚生部	1 校舎内外の清掃の徹底と環境の整備(⑯⑰)	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別処理・減量化を呼びかける。 教室内の整理・整頓と清掃の徹底をはかる。 防災対策を含め、校舎内外の安全点検を行う。 	B	<p>次年度も、各種委員会を活発に使う、ゴミの分別処理・減量化を呼びかけたり、校内の整理整頓と清掃の徹底をはかりたい。さらに、防災対策を含め、校舎内外の安全点検を行う。また、継続して心身の相談活動を推進していきたい。</p>
	2 健康の保持・増進	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康状態の把握に努め、適切な指導・援助を行う。 心身の相談活動を推進する。 	B	
	3 奨学生関連事務の的確な運営	<ul style="list-style-type: none"> 奨学生募集の情報を確実に伝達する。 提出書類作成手続きの指導を適切に行う。 	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
渉外部	1 P T A活動を円滑に実施する。(18)(19)	・関係する分掌や学年と連携、協力して円滑に実施していく。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度はP T Aに入会するか否かの調査を実施する。 ・120周年記念事業を実施するため、P T A規約、後援会会則を改正する。
	2 保護者との連携のもとで生徒の学習環境の整備を進める。(18)	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A役員間の信頼と連帯強化を図る。 ・学習諸活動の環境整備、および学校活性化のための提言を行う。 ・P T Aの諸活動の記録を蓄積し、今後の活動や研究発表等に生かす。 	B	
	3 同窓会「秀芳会」との連携	・更なる連携を推し進め、本校の教育活動への各種支援に対する理解を深める。	A	
S S H部	1 科学教育プログラム 自然科学の世界への導入としても位置づけ、発想力や問題解決力等の基盤となる興味・関心、知識・理解、科学的思考力などを育成(2)(8)(18)(19)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係する学校設定科目を生徒の実態に応じて展開し、科学的思考力、表現力等の向上に努める。 ・S S H講演会を開催し、科学的教養及び学習生活に対する意欲の向上を図る。 ・自然科学への導入として、1年生希望者を対象に「自然科学体験学習」を実施し、自然及び環境に対する知識と理解を深める。併せて発表会を実施することによりプレゼンテーション能力を高める。 ・各種講演会や体験活動の広報を行い、科学的素養の向上に努める。 ・事業の実施においては、全職員の協力のもと推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・分掌と関わりをさらに密にし、行事間につながりを持たせる。 ・行事を精選し、生徒が計画を立て効率よく、余裕を持って学校生活ができるように。 ・サイクルを活性化→SSクラスに限定せず、卒業生の活用。 ・広報活動を高める
	2 科学研究プログラム 科学技術を牽引できる女性としての発想力や問題解決力等を育成(4)(9)(11)(13)(18)(19)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係する学校設定科目を生徒の実態に応じて展開し、知識・理解及び科学的思考力等の向上に努める。 ・「S S 課題研究」「科学系部活動」を行い、研究に対する主体性や科学的実践力、情報収集力及びプレゼンテーション能力の向上を図る。 ・「サイエンスイングリッシュ」・「海外セミナー」を行い、実践的英語力、国際性を育成する。特に「海外セミナー」では、アメリカで活躍する研究者の講演、現地高校生との交流及び相互プレゼンテーション等により、女性科学者育成の基盤づくり等を行う。 ・事業の実施においては、全職員の協力のもと推進する。 	B	
	3 水戸二高SSHサイクル 研究者・技術者としての卒業生の活用。小・中学校に対する科学への夢を育むための教育支援」の研究と実践(10)(18)(19)	<ul style="list-style-type: none"> ・「S S 課題研究」や「科学系部活動」等で、卒業生の協力。助言をもらう。 ・小・中学校、茨城大学及び水戸市次世代エキスパート育成事業において、本校生がインタープリターとして小・中学生に体験実験の指導を行い、科学に興味関心を持つ子供たちの裾野を広げる。 ・本校S S H事業に関する広報活動を進める。 	B	
国際理解教育部	1 異文化理解教育の推進(11)(12)	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外で国際交流、協力活動をしている人たちの講演会を実施する。 ・国際理解の文化活動への参加を促す。 ・多様な文化や価値観を持つ人々との交流会への参加を促す。 ・日本の伝統・文化の良さを学び、発信する態度を育成する。 	A	<ol style="list-style-type: none"> 1 E S Dに関する研修の推進 2 多様性の涵養に努める
	2 ユネスコスクールの加盟(12)	<ul style="list-style-type: none"> ・国連「持続可能な開発目標(SDGs)」17項目を浸透させ、将来の社会参加につなげる。 ・教科横断プログラムの推進(スタートプログラム・環境科学・国際交流)との指導方法の工夫改善を行う。 	B	
	3 グローバルリーダーの育成(12)(13)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク、ディスカッション(グローバル・カフェ等)、プレゼンテーションを実施し、世界の諸課題に対する関心と理解力を深める。 ・海外研修を実施し、国際的な視野を育成する。 ・海外進学および留学への支援を積極的に行う。 	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1学年	1 高校生としての生活習慣の確立(③⑤⑥⑭⑮⑯⑰)	<ul style="list-style-type: none"> 学修記録表等の活用や、個人面談を通して高校生としての自立的な生活スタイルの確立を促し、高校生活を有意義に過ごせるように支援する。 公共マナーや社会ルールを身につけ、品位ある行動がとれるよう指導する。 清掃や整理整頓を常に心がけるようにさせ、落ち着いた学習環境を作る。 特別活動への積極的な参加を支援し、活動の意欲を喚起し、協調性やリーダーシップ等を育てながら、学校生活の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き個人面談を密に行って、進路について深めていくとともに、生活面や普段の様子に注意していく。 将来につながる学習習慣を確立できるように学習記録表を利用するなどして継続的に指導する。 中心学年として、特別活動への積極的な参加を支援し、リーダーシップがとれる生徒を育てる
	2 学習習慣の確立と学力向上(②⑤⑦⑨)	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談を通して学習上の悩みに対応し、高校で学ぶことの意義を理解し、意欲を持って学習に取り組めるよう支援する。 予習→授業→復習の学習サイクルを確立できるよう指導し、授業内容の定着を図る。 道徳の調べ学習を通して、先哲の生き方から自分の人生や生き方を見つめ、かつ資料を活用する力やプレゼンテーション力を養成する。 	B	
	3 進路意識の涵養(②)	<ul style="list-style-type: none"> LHR・個人面談や、進路講演会・キャリアガイダンス・大学見学会などの進路の行事を通して進路意識を高め、適切な文理選択ができるようにする。 	A	
	4 国際理解教育の推進(⑪)	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解のための講演会や海外研修を通して異文化を理解することで、多様性を受容し、グローバル化する社会の中で自己を活かして生きる姿勢を育てる。 	B	
第2学年	1 進路目標の明確化(②③④⑧⑪)	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会・大学模擬授業などの行事を検討し、より効果的に実施する。 進路指導部と連携を密にし、的確な進路情報の提供に努める。 「個人面談」を充実させ、生徒の適正や希望の的確な把握と助言に努める。 SSH講演会や国際理解講演会を通して、進路意識の向上を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 入試に向けて計画的に準備を進めるよう、進路指導部と連携を取りながら指導する。 自主学習の質を向上させる。できるようになるまで諦めずに粘り強く問題演習に取り組むよう指導する。 普段の生活状況の観察や面談等を通して、精神面の変化をきめ細かく把握し最善の指導にあたる。
	2 生活習慣・学習習慣の確立と学力向上(⑤⑥⑦⑯⑰)	<ul style="list-style-type: none"> 「今⇄未来手帳」を活用し、「⑦授業の予習復習を軸とした学習計画を立てる ①主体的に取り組む ②振り返り新たな計画を立てる」というサイクルの確立を支援する。 課外・小テストなどを適切に設定し、個に応じた学習指導に努める。 二高生として品位ある行動がとれるように指導する。 	A	
	3 LHR・総合的な学習の時間・特別活動等の活用(⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮)	<ul style="list-style-type: none"> 白百合セミナーを通して、多様な歴史や文化を受容できる力を育成する。 道徳プラスを通して、規範意識を高め、協同する姿勢を育む。 特別活動への積極的な参加を支援し、活動の意欲を喚起し、協調性やリーダーシップ等を育てながら、学校生活の充実を図る。 調査や発表に取り組むことで、論理的思考力やプレゼンテーション力を養成する。 	B	
第3学年	1 進路目標の明確化と進路希望の実現(②③④)	<ul style="list-style-type: none"> 面談や進路講演会等を通して目標の確認・修正を行い、進路希望実現への意識を高める。 模擬試験の結果を分析し、進路選択の指導・助言に活かす。 進路指導部と連携し、的確な入試情報を提供し、意識の高揚と意欲の喚起を図る。 情報の共有と公平性を確保する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に行動する時間の確保 学習時間の確保 学習方法の指導 計画立案の指導 情報の活用方法の指導 課題の精選と教科間の調整 模擬試験の精選(時期と回数)
	2 自学自習力の育成と学力向上(⑤⑥⑦)	<ul style="list-style-type: none"> 「学年の手帳」を活用し、自分に必要な学習に計画的に取り組むよう支援する。 学習室を積極的に利用させ、学習時間の確保を図る。 	B	
	3 規範意識の確立(⑯)	<ul style="list-style-type: none"> 時間厳守や規則の遵守等、社会生活のモラルや危機管理意識を認識させる。 学年集会・LHR等を通して、きめ細かな指導を継続的に行う。 	B	
	4 特別活動等の充実(⑭⑮)	<ul style="list-style-type: none"> 最高学年としての自覚を持たせ、高校生活の集大成として諸活動へ意欲的に参加できるよう環境作りをする。 体育祭やクラスマッチの実行にあたり、リーダーシップを発揮し、中心となって活躍できるように支援する。 	A	

※ 具体的目標の後のかっこ内の数字は、1ページの学校の重点目標①～⑱との関連を示す。

※ 判定基準：A…非常に良くできた B…良くできた C…普通 D…やや不十分 E…不十分